環境概論

持続可能な地域づくり（森の自然エネルギー活用）

日時：平成２４年９月９日（日）　１０：００～１２：００

講師：高野　雅夫（名古屋大学大学院環境学研究科准教授）

概況

1.里山景観の過去

豊田市の花崗岩からなる猿投山周辺では、焼き物の原料となる陶土層が分布しています。江戸時代から明治時代にかけて、陶土の採掘とこれを焼く膨大な燃料用の薪材が伐採され続けた結果、広大な山地帯となり、日本三大はげ山地帯のひとつと呼ばれました。

森林法と砂防法の公布された明治30年頃から、はげ山の萌芽更新の普及と森林の保全などの治山・砂防工事が国や県によって実施された結果、植生が回復しました。

木材輸入の完全自由化、燃料革命、高度経済成長に伴う生活様式の変化などを背景に国産材の需要が減少するとともに、木材価格も低下しました。林業の採算性の悪化と中山間地の人口過疎化とともに耕作放棄地、管理不足人工林、竹林が拡大されました。

2.里山景観の現在

自然エネルギー100%の暮らしの事例としてすげの里の取組みの紹介がありました。この施設は自然エネルギーの活用に取り組んでいる。太陽光発電や LED 証明などの技術に加え、薪ボイラーや薪ストーブを設置することで、間伐材などの木材を燃料として給湯や暖房のエネルギーに活用されています。